

# 第6回食と農林漁業 大学生アワード

## 熊本の農業を学びながら支援する 「阿蘇援農」が農林水産大臣賞受賞

▶11月4日  
(東京都)

農林水産省主催の食と農林漁業大学生アワード決勝大会が11月4日、都内で開催され、東海大学チャレンジセンター阿蘇援農コミュニティプロジェクト（阿蘇援農）が農林水産大臣賞を受賞した。

このコンテストは、大学生グループによる活動を対象に、食と農林漁業を通じた地域の再生のための活動を促進し、その活動の重要性を国民に伝えるために実施しており、今年で6回目になる。決勝大会当日は、書類選考された9グループによる発表と審査が行なわれた。

受賞した阿蘇援農は、熊本県南阿蘇村にある東海大学阿蘇キャンパスの農学部学生、約160人を中心に、農業支援に取り組む学生グループである。生産者と一緒に実践的な農業を学びたいという学生と、労働力不足に悩みながら若者に農業を知ってもらいたいという生産者の考え方が一致し、2008年にグループを結成した。

今年の活動は、4～9月で、計61回を数えた。活動の内容は農作業である。作物の定植から除草、収穫、ハウスの設営まで、生産者に教わりながら直接生産にかかわる作業をした。

16年4月に発生した熊本地震で、東海大学阿蘇キャンパスも被災し、活動の休止を余儀なくされた。しか

し、メンバーには活動を再開したいという意志があり、被災した家の後片付けと農作業が重なった生産者が肉体的にも精神的にも負担が重くなっていることを知り、今年4月から活動を再開した。今年は、以前にも増して活動を活性化させている。生産者からは、「気分が沈んでいたが、若い学生の笑顔にパワーをもらえた」「農業を続けようと思えるようになった」という反応があった。

本来の活動の目的は、農業のノウハウを学びながら作業支援をすることだったが、震災以降の経験から、熊本の農業の復興を支えていこうという新たな意識で活動に取り組んでいる。

代表の東海大農学部3年、藤川志津香さん（20）は受賞式の挨拶で次のように語った。

「震災で活動がでさなくなりましたが、またみんな

頑張っ続けてきてよかったと思います」

ほか、8つの団体からは、獣害対策のために野生動物を有効活用する活動や、地域の食材を子どもたちに正しく伝える食育の活動、農産物のブランド化の活動など、さまざまな活動が発表され、会場から大きな拍手を受けた。

（平井ゆか）



農林水産大臣賞を受賞した東海大学チャレンジセンター阿蘇援農コミュニティプロジェクトのプレゼンテーション